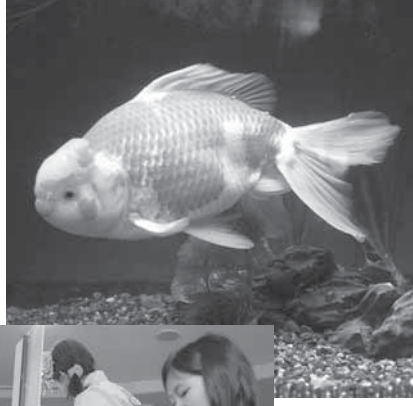
⬆インディアン水車まつり　会場の釣堀ではたくさんの来場者が釣り糸を垂らして「あたり」を待ちます。

⬅インディアン水車　捕獲されたサケはオスとメスに選別されてしばらく成熟を待ちます。捕獲の最盛期にはたくさんの見物客が訪れます。



➡金魚展　かわいい金魚たちがたくさん集合しています。金魚すくいも人気です。

金魚を楽しもう！サケを楽しもう！

「金魚の夏がやってきた！」

館内では、親子で楽しめる金魚展を8月29日(日)まで開催しています。

夏祭りの金魚すくいに代表されるように、日本の夏の風物詩ともいえる金魚。そのかわいらしくも美しい姿は、昔から人々に愛され親しまれてきました。新たな品種も続々と誕生しているそうです。

今回は、日本で見られるたくさんの品種を展示しています。金魚の品種改良の歴史をひもときながら、飼育方法や金魚に関する伝統文化を紹介しています。

金魚展の期間中、毎日13時から15時まで金魚すくい（有料）を行っているほか、浴衣での入館者には記念品を贈呈しています。

この機会に、さまざまな金魚に触れながら、暑い夏を楽しみませんか？

9月19日から20日、サケのふるさと館を含む「道の駅サーモンパーク千歳」を会場に毎年恒例の**「インディアン水車まつり」**を開催します。

和太鼓や演奏会、丸太切りレース、ヤマメレースなど親子で参加できる楽しい行事のほか、サケ鍋やいくら丼の販売も行います。

また、会場にはたくさんの出店が並び、市内外から多くの方が訪れお祭りを満喫します。

千歳川をそ上するサケを眺めながら、楽しいひとときを過ごしませんか？

今年もまもなく千歳川にサケが帰ってきます。命の限りを尽くしてそ上するサケに触れて、命の輝きを感じませんか？

サケが新千歳空港を呼び寄せた？

新千歳空港の生い立ちにはサケが関係しています。

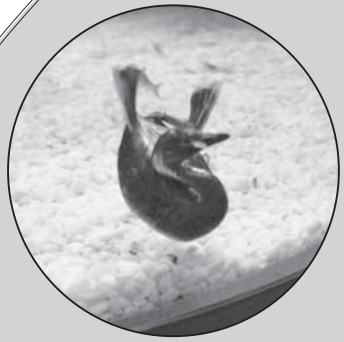
千歳川をたくさんのサケがそ上していたため明治21年にさけ・ますふ化場が開設されました。

大正15年に苫小牧と札幌を結ぶ鉄道が開通。これを記念して当時の小樽新聞社が、さけ・ますふ化場での読者の観楓会を企画しました。この観楓会参加者の千歳駅到着に合わせ、歓迎飛行が計画されました。この飛行機を間近に見ようと、千歳村民がつくった着陸場が、現在の新千歳空港のはじまりです。

千歳川をそ上するサケがいたため、ふ化場が開設され、観光客が来訪し、住民の力を結集した空港の礎を築くことができたといえます。

水鳥★カイツブリ★

～新しい仲間が登場～



7月にサケのふるさと館に来ました。会いに来てね！

体長25センチメートル程度。野生のカイツブリは春から秋に千歳に飛来します。小魚などのエサを取るため潜水し、魚並みの器用さで泳ぎます。